

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2023-014
2.研究課題名	アバターを用いたオンライン型ピアサポートが嗅覚関連づけ障害症状をもつ参加者及びピアサポーターに与える影響
3.研究期間	令和 6 年 3 月（倫理委員会承認後）～ 令和 7 年 03 月 31 日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 本研究の目的は、嗅覚関連づけ障害（olfactory reference disorder; 以下、ORD）を有する者に対するアバターを用いたオンライン型ピアサポートの影響を検討することである。検討は、ORD 症状をもつ者を対象として、2024 年に「自分のニオイで悩む当事者のためのオンライン型ピアサポートプロジェクト」に対する観察研究として、3 つの調査（調査 1.1, 調査 1.2, 調査 2）を実施することで行う。 調査 1 では、ORD 症状に関連する抑うつ症状と社会機能の支障の軽減に対する、アバターを用いたオンライン型ピアサポートの影響を検討することを目的とする。具体的には、調査 1.1 では量的研究を実施し、実証的に影響を検討する。調査 1.2 では調査 1.1 の結果のさらなる理解のために、ピアサポートの影響をプロセスとして質的な側面から検討する。調査 2 では、ピアサポートがピアサポーターに及ぼす影響とその影響がピアサポート活動に及ぼす影響の循環を質的に検討する。 本研究を実施することで、当事者の抱える困難さとは反対に支援や研究が非常に限定的な(Greenberg et al., 2016) ORD 症状を有する者に対するピアサポートの可能性を検討することが可能となる。また、アバターを用いたオンライン型ピアサポートに関する新たな研究知見の提供も期待される。こうした結果、社会的な意義として、当事者同士の安全な交流の促進にも繋がることが期待される。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 調査 1.1 アンケート調査 1 回目のアンケートにおける対象者の適格基準は、(1)「自分のニオイで悩む当事者のためのオンライン型ピアサポートプロジェクト」の参加者であること、(2)自分の臭いの悩みについて考えることに多くの時間を費やしており、「考える時間がもっと少なくなればいいのに」と思っていることとする。除外基準は、医療機関で強い不快な臭いを放つ原因となる疾患に罹患していると診断されていることとする。性別による対象者の選別は実施しない。2 回目のアンケートにおける適格基準は 1 回目のアンケートに回答したこととする。上記の基準を満たす本研究の目標対象数は、100 名とする。 調査 1.2 インタビュー調査 対象者の適格基準は、(1) 調査 1.1 に 1 回目と 2 回目の両方とも参加した者であること、(2) プロジェクトのグループ交流会に 1 回以上参加したこととする。性別による対象者の選別は実施しない。上記の基準を満たす本研究の目標対象数は、15 名を目安とし、理論的飽和に達した時点

	で終了とする。 調査 2 インタビュー調査 対象者の適格基準は、(1)「自分のニオイで悩む当事者のためのオンライン型ピアサポートプロジェクト」にピアサポーターとして参加した者であること、(2)自分の臭いの悩みについて考えることに多くの時間を費やしており、「考える時間がもっと少なくなればいいのに」と過去に思った経験があること、(3) プロジェクトのグループ交流会に1回以上参加したこととする。除外基準は、医療機関で強い不快な臭いを放つ原因となる疾患に罹患していると診断されていることとする。性別による対象者の選別は実施しない。上記の基準を満たす本研究の目標対象数は、16名を目安とし、理論的飽和に達した時点で終了とする。 問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 教育心理学講座 臨床心理学分野 Tel：022-795-6140
--	---

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）